

発達障害と「やり抜く力」

◆発達障害の子どもたちには「ゆっくり」な傾向があります

「やり抜く力」には、個人差があります。

何事も上手に段取りをつけて計画的、効率的に取り組める人がいれば、期限が迫らないと動き出さない人、途中でつまずくとなかなか立ち直れない人などもいるでしょう。

発達障害のある子どもたちは、「やり抜く力」の発達が、比較的ゆるやかです。

「発達障害」とひと言で言ってもさまざまなものがありますが、「やり抜く力」との関連が密接に考えられるのは、**ADHD** (Attention-Deficit / Hyperactivity Disorder : 注意欠如・多動症) と、**ASD** (Autism Spectrum Disorder : 自閉スペクトラム症) です。

◆「やり抜く力」はその子のペースで身につくものです

発達障害は、脳神経の伝達における何らかの不具合によって起こっていると考えられる、いわば生まれつき症状のことです。脳の神経伝達のどの部分にどのような不具合があるのか、どうしてそうなるのかといったことの解明については、まだ研究段階にあります。少なくともその原因が、「親の育て方」や「子どもの人格」ではないということは明らかです。**発達障害は、あくまでも脳機能の不具合なのです。**

「やり抜く力」は、おもに脳の「前頭前野」が担っていると考えられています。ADHDやASDの場合、前頭前野の働きが弱いことがわかっており、それが原因となつて、自ら行動を開始し、数々の誘惑や困難に直面しても感情を適切にコントロールして完了する、という結果になかなか至れないことが多くなります。

しかし、「やり抜く力」は青年期までにかけて徐々に発達していくものです。**適切な環境整備と、子どもに合わせた関わり方があれば、その子のペースで着実に変化・成長していきます。**

必要なのは、子ども一人ひとりに合わせた親のひと工夫です。